

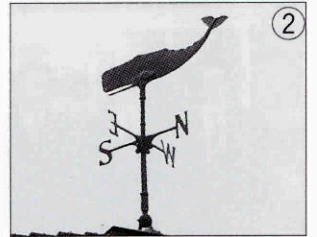
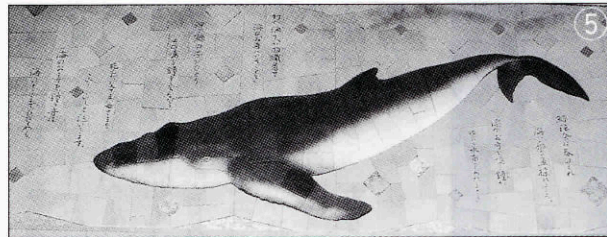
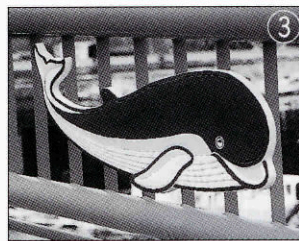
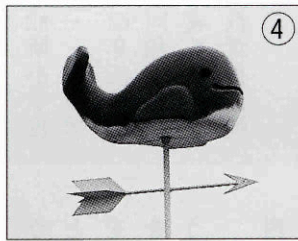
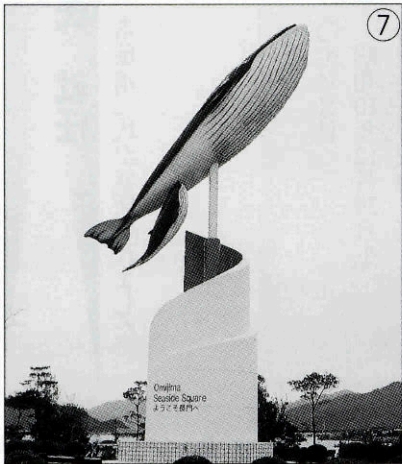
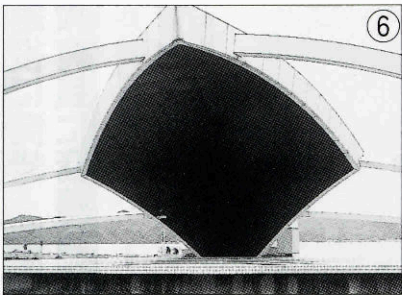
特集： **かよい と くじら**
通 と 鯨

くじら資料館

平成5年、鯨墓のもとにオープン。捕鯨用具などクジラに関する資料が展示してある。5年間で約16万人の入館者があった。



街の鯨たち



- ①マンホール蓋（通地区）②方位鯨（さわやか海岸）③鯨の欄干飾り（青海大橋）④風見鯨（青海島シーサイドスクエア）⑤鯨の壁画（市立図書館）⑥鯨座が組み込まれたステージ（青海島シーサイドスクエア）⑦鯨の歓迎塔（青海島シーサイドスクエア）

明治元	二八六	幕末維新動乱で中断していた肥前波指の再雇入れはじまる
四	二八七	通浦共同（全漁民出資の新組織）なる
八	二八五	鯨組総代早川正右衛門、瀬戸崎浦の内海網代を向う10年借り受ける
三	二八〇	11月、翌年3月、14頭捕獲、西のマメノキの浜・向の観音堂の下・田ノ浦浜で解体
一	五八二	通浦地下中に捕鯨鑑札下附される。鯨組総代磯部八十郎
二	八八三	銃殺式捕鯨について肥前平戸捕鯨会社と接触
三	八八九	4月、瀬戸崎浦と合併し、瀬戸崎・通村となる（32年に分離）大日本帝國水産KKと捕鯨契約を結ぶ
二	八九五	堀伴成（島根県津和野）を社長とする通捕鯨会社設立
三	八九九	山田桃作社長・岡十郎常務が中心となって仙崎に日本遠洋漁業株式会社を創業する。ノルウェー式捕鯨創始
三	九〇〇	山口県外海水産試験場開設
三	九〇三	通浦漁業組合なる
四	九〇六	通浦共同、翌42年にかけて捕鯨船のほか一切の道具を売却。ここに網取り式捕鯨おわる

衛門・三隅の山本寅藏の資金を得て見島網代の開拓にあたる（安政5年まで）

四二五 鯨組、資金難におちいり、藩費援助を上申（安政6年にも）

五二五 通・瀬戸崎両鯨組の見島組の一部、須佐浦に捕鯨を試みる

明治元 二八六 幕末維新動乱で中断していた肥前波指の再雇入れはじまる

四 二八七 通浦共同（全漁民出資の新組織）なる

八 二八五 鯨組総代早川正右衛門、瀬戸崎浦の内海網代を向う10年借り受ける

三 二八〇 11月、翌年3月、14頭捕獲、西のマメノキの浜・向の観音堂の下・田ノ浦浜で解体

一 五八二 通浦地下中に捕鯨鑑札下附される。鯨組総代磯部八十郎

二 八八三 銃殺式捕鯨について肥前平戸捕鯨会社と接触